

# 山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 成果を検証する —

令和2年 No.1298

# 4



令和元年度 第72回山口県学校美術展 推奨作品  
「美しくさいたね!!」  
山口市立嘉川小学校 5年生 (受賞時) 中上 鈴星

## ■特別号 明日を拓く

■令和2年度 (一財) 山口県教育会の活動  
明日を拓く — 成果を検証する —

### ■令和元年度助成事業の概要

#### ■わたしの学校経営

山口市立白石小学校	校長 藤永 靖彦
岩国市立東中学校	校長 村井 浩司

#### ■わたしの学級づくり

周南市立富田西小学校	教諭 清水香代子
長門市立仙崎小学校	教諭 飯田 将之
岩国市立川下中学校	教諭 佐藤 翔太
防府市立桑山中学校	教諭 宮崎麻衣子

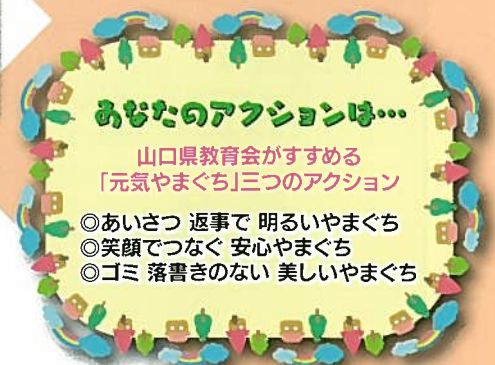
#### ■わたしの潤い

周南徳山支部	河内 澄行
下関支部	森 誠二

#### ■教職時代を偲ぶ

下関支部	山口 知久
------	-------

#### ■ご案内



一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail [ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp](mailto:ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp)

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚

# 令和2年度（一財）山口県教育会の活動

## I 活動方針

### 明日を拓く（最終年次／7年計画）

— 成果を検証する（最終年次／2年計画） —



山口県教育会は、民間教育団体として防長教育の伝統を受け継ぎ、①教育世論の高揚②教育研究の奨励 ③教育環境の整備 ④教育事績の顕彰 ⑤文化遺産の継承、に創立以来一貫して取り組み、山口県教育の振興に寄与してきた。

平成26年度からは、主題「明日を拓く」を掲げ、「将来に明るいビジョンを描き、自分の進むべき道を力強く切り拓いていく力」の育成をめざして、7年計画で各種事業を展開している。最初の2年間は、副主題を「目標を明確にする」として、各事業が会員の要請に応じているかどうか目的、内容等を見直し、各事業の目標を明確にした。平成28年度から3年間は、副主題を「豊かな実践に高める」として、各事業の内容充実に取り組み、助成事業など多くの事業について改革を進めた。残り2年間となった令和元年度からは、副主題「成果を検証する」のもと、これまでの改革の成果を検証することによって、各事業の目的とその達成度を明確にしてきた。

主題「明日を拓く」について、第1年次（平成26年度）の活動方針では、「日本の将来と国際社会の発展に寄与するために、地域社会・家庭・学校の連携に一層尽力し、将来への明るいビジョンを天空いっぱい描いて実践活動を活性化」と解説した。

本年度は、いよいよ最終年次である。副主題「成果を検証する」の第2年次として、「将来への明るいビジョンを天空いっぱい描いて実践活動を活性化」ことが、実現したかどうかの検証を継続して取組のまとめをしたい。

重点を置いて検証するのは、平成29年度に検討委員会を設置して、県内すべての地区を対象にした教育世論高揚事業になるよう見直しをした「やまぐち教育の日・教育県民大会」の開催方法とその内容である。検討の結果、県内を8地区に分け、持ち回りによってそれぞれの地区で教育県民大会を開催する体制に変更した。本年度は、その最初の大会を下関地区で開催する。下関支部会員、豊浦支部会員の教育にかける願いを具体化した企画、運営であり、県内の教育世論高揚にどのように貢献できたか検証していきたい。

また、現職研修助成事業や地域活性化活動助成事業などの助成事業についても成果の検証を継続し、会員の要望に応える助成事業になるよう改革を継続する。さらに、日本連合教育会全国研究大会への派遣が定着してきた現職教員の県外派遣研修や教職経験10年未満の教員を対象とした青年教師の集いなどについても、現職の会員が求めている研修事業になっているかどうか検証を継続する。

主題「明日を拓く」の最終年次となる本年度は、この7年間の活動で得られた成果と残された課題を明確にして、来年度から始まる新しい主題での活動に繋げたい。

## II 事業

### 1 教育世論の高揚事業

#### ○やまぐち教育の日・教育県民大会の開催

第19回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会下関大会

主催（一財）山口県教育会ほか22団体

期日 令和2年11月7日(土)

会場 下関市菊川ふれあい会館アブニール

大会主題 「明日を拓く」  
～子供の育ちを見つめる(仮)～

#### 内容

- ・アトラクション  
演目：未定  
本村小学校平家踊りを受け継ぐ子の会
- ・開会行事
- ・「金子みすゞ賞」童謡詩、「わたしの志」作文  
入賞者表彰及び朗読
- ・記念講演  
演題：未定  
講師：下関市教育委員会 教育長 児玉 典彦 様
- ・閉会行事

#### ○教育活動の推進

「元気やまぐち」三つのアクション

(平成17年度山陽小野田大会にて採択されました)

- ・あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ・笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ・ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

#### ○地区別教育振興フォーラム

時期 令和2年11月1日(日)～7日(土)の教育週間を中心で開催する。

会場 各地区の開催担当支部が決定する

内容 地域活動の発表、講話、シンポジウム

#### ○教育活動の情報発信

- ・情報紙「山口県教育」の編集・毎月発行  
特別号（4月・10月は増ページ）
- ・ホームページの随時更新

現職研修助成事業と地域活性化活動助成事業は、活動概要報告の受領後、随時更新します。

#### ○各種キャンペーンとの連携推進

# 明日を拓く - 成果を検証する -

## 2 教育研究の奨励事業

### ○豊かな実践に高める創造ある研究への助成

#### ○青年教師の集いの開催

##### 第11回青年教師の集い

期日 令和2年8月6日(木)～7日(金)

会場 パルトピアやまぐち

参加者 小学校教諭、中学校教諭 各6人程度

内容 「小中学校国語科」

－国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てる－

指導実践例に基づく発表、意見交換

指導案作成、模擬授業、研究協議

申込締切 令和2年6月12日(金)

#### ○日本連合教育会研究大会への参加

##### 第72回日本連合教育会研究大会香川大会

期日 令和2年8月20日(木)～21日(金)

会場 サンポートホール高松 他

・全体会

・記念講演 佐藤 勝彦 氏

(学術システム研究センター所長、高松市こども未来館名誉館長 宇宙物理学者)

演題：輝く未来を創る力、好奇心を育む  
～宇宙物理学者からのメッセージ～

・分科会 教育課程、道徳教育など10分科会

参加経費 参加費、交通費、宿泊費は、  
(一財) 山口県教育会が負担する。

参加申込 (一財) 山口県教育会へ

### ○学校教育、社会教育の支援

#### 現職研修助成事業

対象 個人、学校、同一校職員によるグループ、  
複数校職員によるサークル

#### 対象とする研修

- ・教育課程の編成、実践、指導法の工夫、教材開発、評価の研修など
- ・研修会、研究発表会、講演会等の開催及び研究集録等の刊行など
- ・研究発表大会、学会への参加や先進地の視察など

#### 助成金額及び助成件数

種別	助成金額	助成件数	留意点
学校	5万円	10件程度	1校につき1件とする
	4万円	20件程度	
	3万円	30件程度	
グループ サークル	4万円	3件程度	1校につき1件、 大規模校は2件以内とする
	3万円	5件程度	
個人	3万円	5件程度	

申込締切 令和2年6月12日(金)

#### 教育団体研究助成事業

対象 ・教育団体が主催する本県で開催される全国大会、中国四国大会等

助成金額 5万円～10万円

・小学校教育研究会、中学校教育研究会、  
公立学校教頭会が実施する教育研究会  
助成金額 各団体につき15万円

申込締切 令和2年5月29日(金)

## 3 教育環境の整備事業

### ○「人と人」「人と自然と文化」を大切にできる地域活動の支援奨励

#### 地域活性化活動助成事業

##### 助成の対象

- ・趣旨に適合した一般団体
- ・学校と連携して地域の活性化に取り組むPTA
- ・学校と連携して地域の活性化に取り組むグループ、団体

##### 助成の対象となる活動

- ・地域の活性化を図る計画的、組織的な教育活動
- ・学校支援の活動、地域の子どものための教育支援及び教育環境整備の活動
- ・地域の伝統文化、文化遺産等の継承活動

##### 助成金額及び助成件数

助成金額	助成件数	留意点
5万円	10件程度	・1団体につき1件とする。 ・1校につき1件とするが、 大規模校の場合は2件以内とする。
4万円	20件程度	
3万円	30件程度	

申込締切 令和2年6月12日(金)

### ○支部組織の充実

- ・支部研修の充実
- ・会員目標 10,000人以上  
(小・中学校教職員の70%加入を目指す)
- ・団体、機関への教育会加入の勧誘
- ・支部活動費の有効活用

### ○地域活動の推進

#### 支部活動振興助成事業

助成の対象 山口県教育会支部  
支部と連携する諸団体

#### 助成の対象となる活動

- ・支部組織・機構の整備、充実活動
- ・教育世論を喚起・結集する活動
- ・地域の伝統文化、文化遺産等の継承活動
- ・青少年の健全育成活動
- ・学校、地域との連携活動
- ・会員確保の取組

#### 助成金額

年間助成金総額を100万円以内とし、その範囲内で事業内容等を勘案して助成金額を決定する。

申込締切 令和2年7月3日(金)

### ○学校、公民館(地域交流センター)、自治会等との連携

- ・学校、公民館(地域交流センター)、自治会との連携活動の充実
- ・公民館(地域交流センター)祭り、地域の祭り等におけるPR活動

# 明日を拓く - 成果を検証する -

## 4 教育事績の顕彰事業

### ○「わたしの志」作文の募集と表彰

#### 第12回「わたしの志」作文募集

- ・募集部門 小学生の部(4年生以上)、中学生の部  
高校生の部
- ・賞 山口県教育委員会教育長賞(最優秀) 一編  
山口県教育会長賞(優秀) 各部門一編  
松風会理事長賞(優秀) 一編  
努力賞(佳作) 各部門数編

#### ・表彰

第19回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会  
下関大会において表彰式を行う。

#### ・表彰作品の発表

最優秀作品は、第19回やまぐち教育の日・第48  
回教育県民大会下関大会において作者が朗読を  
行うとともに、山口県教育会が発行する情報紙「山  
口県教育」に掲載する。

最優秀作品を含む優秀作品は、山口県教育会のホー  
ムページにおいて公表する。

- ・募集締切 令和2年9月10日(休)

### ○松陰に親しむ会(令和元年度防府支部・萩支部)

### ○松陰の道歩行大会(令和元年度防府支部)

### ○松陰研修グループの支援(令和元年度萩支部)

### ○郷土の偉人・文化に学ぶ会(令和元年度防府支部)

### ○世界遺産岩見銀山を訪ねる旅(令和元年度岩国支部)

### ○徳地幕末維新歴史放談の会(令和元年度佐波支部)

### ○松風会共催事業の支援

## 5 文化遺産の継承事業

### ○「金子みすゞ賞」童謡詩の募集と表彰

#### 第33回「金子みすゞ賞」童謡詩募集

- ・募集部門 小学生の部、中学生の部  
高校生・一般の部
- ・賞 山口県教育委員会教育長賞(最優秀) 一編  
山口県教育会長賞(優秀) 各部門一編  
努力賞(佳作) 各部門数編  
学校賞 一校

#### ・表彰

第19回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会下関大  
会において表彰式を行う。

#### ・表彰作品の発表

最優秀作品は、第19回やまぐち教育の日・第48回教育  
県民大会下関大会において作者が朗読を行うとともに、  
山口県教育会が発行する情報紙「山口県教育」に掲載  
する。

最優秀作品を含む優秀作品は、山口県教育会のホーム  
ページにおいて公表する。

- ・募集締切 令和2年9月10日(休)

### ○支部、地域の文化活動の支援

- ・地域の伝統行事「もみ山」の保存、継承(令和元  
年度大島支部)
- ・伝統芸能「島中太鼓」継承活動(令和元年度大島支部)
- ・月性剣舞保存会継承活動(令和元年度柳井支部)
- ・徳地人形浄瑠璃継承活動(令和元年度佐波支部)
- ・徳地重源太鼓継承活動(令和元年度佐波支部)

## 6 編集出版事業

- ・「高校生活への道しるべ」の編集出版
- ・「思春期の子どもをもつ親の悩みに答える20章(改訂版)」の頒布
- ・学校給食関係帳簿、「出席簿」等の頒布
- ・「松陰読本」「わたしと小鳥とすずと」等の頒布
- ・吉田松陰先生座像の頒布

## 7 会館管理運営事業

- ・研修室、会議室、ホールの稼働率向上
  - ・計画的な改修の推進
- ※消費税増税に伴い、令和2年4月から施設の使  
用料を値上げさせていただきます。

詳しくは、ホームページで  
(<http://ykyoikuk.or.jp>)

## III 予算

### 一般会計

収入の部		(単位:円)
科目	予算額	備考
基本財産運用益	1,445,000	
受取会費	17,565,000	通常、終身等会費
受取補助金等	486,000	下関市、民間団体等
受取寄付金・雑収益	101,000	
評価損益等調整	16,049,000	
収入合計	35,646,000	
支出の部		
科目	予算額	備考
事業費	30,521,000	助成金、活動費等
管理費	5,125,000	会議費、通信費等
支出合計	35,646,000	

### 事業会計

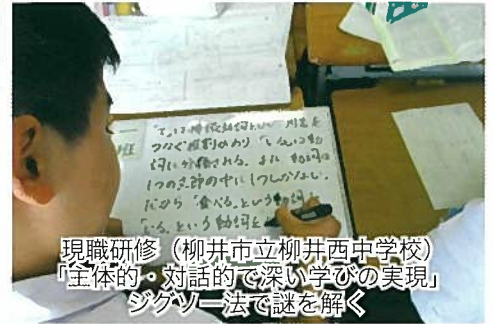
収入の部		(単位:円)
科目	予算額	備考
事業収益	6,674,000	出版事業
雑収入	461,000	
収入合計	7,135,000	
支出の部		
科目	予算額	備考
事業費	6,103,000	印刷費、運搬費等
管理費	981,000	会議費、手数料等
評価損益等調整	51,000	
支出合計	7,135,000	

### 会館会計

収入の部		(単位:円)
科目	予算額	備考
事業収益	17,500,000	ホール・研修室使用料
受取負担金	19,500,000	入居団体負担金
雑収入	301,000	自販機、利息等
経常損益等調整	5,466,000	
収入合計	42,767,000	
支出の部		
科目	予算額	備考
事業費	29,827,000	修繕費、消耗品費等
管理費	12,940,000	光熱費、会議費等
支出合計	42,767,000	

令和元年度教育研究・地域活動等助成事業の実績

事業項目	助成額
助成事業	
・現職研修助成事業（全79件） （個人・学校・グループ・サークル） （小中学校教育研究会・公立学校教頭会）	2,980,000円
・地域活性化活動助成事業（62件）	2,050,000円
支部活動振興助成（11支部21件）	652,000円
熟年活動支援助成（山口大学メンネルコールOB会）	50,000円
総 額	5,732,000円



現職研修（柳井市立柳井西中学校）  
『全体的・対話的で深い学びの実現』  
ジグソー法で謎を解く



地域活性化活動  
『小倉百人一首かるたの町づくり』  
山口県立小野田高等学校

☆現職研修助成事業及び地域活性化活動助成事業において助成を行った活動は、活動概要をホームページに掲載しています。

【活動概要例】 萩市立椿西小学校（地域活性化活動助成事業）

『萩イルミネフェスタ』

～「地域活性化への協力」と「地域を愛する心情の醸成」～  
萩市立椿西小学校

『萩イルミネフェスタ』について（萩市観光協会のHPより）

大正14（1925）年に建設された貴重な洋館駅で登録文化財に指定されている「萩駅舎」周辺で、イルミネーションの点灯が行われ、幻想的な姿をつくり出します。  
萩駅舎周辺を彩るさまざまなイルミネーションは、地元の高中生や小学生も協力して制作しています。また2013年に設置された「蒸気機関車動輪（D51）」や、2016年に建立された「井上勝志気像」などもご覧いただけます。



【6年生】イルミネ製作の様子



【6年生】イルミネ製作の様子

1 活動の概要

- (1)3年生(有志15名)「ステージ発表(歌、ダンス、ハンドベル演奏)」
- ・10月から、3年生有志が、出し物内容について話し合い、準備を開始。
  - ・家庭の協力を得ながら、学級担任等がアドバイスをし練習。
  - ・11月23日(土)の「点灯式」でステージ発表(約10分間)。



【3年生】クリスマスの歌



【3年生】ハンドベル演奏と歌

- (2)6年生(全員35名)「イルミネーションの製作(ようこそ令和・椿西小)」
- ・10月から、6年生児童全員が「総合的な学習の時間」の一環として、イルミネーションのアイデアを話し合い、製作開始。本年度は、『ようこそ令和』で「東京オリンピック2020 JAPAN」「椿西小マスコットキャラクター」「クリスマスツリー」等を表現。
  - ・その際、実行委員会の方に来校していただき(複数回)、イルミネーション製作の指導や援助等をしていただいた。
  - ・11月15日(金)に萩駅前ロータリーに設置。
  - ・11月23日(土)に点灯式(イルミネーション製作の集大成)に参加。
  - ・11月23日～1月5日まで毎日17:30～23:00に点灯。



【6年生】イルミネ作品「ようこそ令和」(椿西小)

2 成果

- (1)3年生(有志15名)「ステージ発表(歌、ダンス、ハンドベル演奏)」
- ・多くの観客の前で歌を歌ったりハンドベル演奏をしたりすることは、児童の表現力の育成により経験になるとともに、会場を大いに盛り上げることができた。
  - ・毎年の恒例行事のため、「3年生になったらぜひ出場したい」と考えていた児童もおり、よい伝統となっている。
- (2)6年生(全員35名)「イルミネーションの製作」
- ・「総合的な学習」として学級全員で取り組んだことで、卒業製作としての良い記念になった(記念写真は卒業アルバムにも掲載予定)。
  - ・地域の方々が多く参加する行事に関わること、地域の活性化になるとともに、地域を愛する心情の醸成にもつながっている。

3 課題

- ◇ 点灯式は土曜日17:00～のため、3年生・6年生の全員が参加することができなかったのは残念であった。
- ◇ もっと予算があれば、よりダイナミックな表現のイルミネーションができそうである。

ホームページ（トップページ＞事業）から各活動報告を閲覧することができます。

- 現職研修助成事業…………… ○○年度助成団体一覧・活動報告（随時）→
- 地域活性化活動助成事業…………… ○○年度助成団体一覧・活動報告（随時）→

# 幸せに生きていく力の基盤を育てる



山口市立白石小学校

校長 藤永 靖彦



大いちようくんグッズ

## 一般企業に勤めて

自分の教育観が変わった話をします。九年前長期社会体験で一年間一般企業に勤めました。新鮮な感動と戸惑いの日々でしたが子どもたちが将来入っていく社会の仕組み、企業努力、働くことの意味、人の幸せについて実感しながら考えることができました。

その会社は、会社指定図書感想文、親孝行作文など社員一人ひとりの生き方教育にコストをかけている会社で、そのレポートをまとめることも業務の一つでした。



親孝行作文集

## 過去の子どもたちからの切ないお便り

三千人の感想文・作文には仕事や家庭生活でのがんばりや幸せも見えますが、本当に寂しかったり、苦しかったりの、切ない人生がいくつも垣間見えしました。その作文は「先生きついでです!」と、過去に教えた子どもたちからの、切ないお便りのように感じたことを思い出します。

大切なものを何か伝えていなかったのではないか!という思いを強くしました。子どもたちが将来、幸せを築き、人を幸せにできる人間となるために学校で何を大切に育て、経験させたらよいか。社会の中で、家庭の中で、働く中で「幸せに生きていく力の基盤は何か?」をあらためて考えることのできた一年間でした。校長として八年目を迎えます。四月この問いを見直し、「こんな学校でありたいな」を先生方に話します。

## 幸せに生きる力を 日々の授業の中で

### ○仲間と力を合わせる経験を重ねること

日々の授業の中で、仲間同士のかかわり合いの中で、うまくいったり、いかなかったりをあんなによく経験させることが大切です。実感させたい中身は「仲間への共感や自己肯定感、おほかさや主体性、温かい仲間関係、違いや弱さへの受容性」です。それらを国語や算数、道徳や特別活動など、まず日々の授業で、体験的に感じさせたいと思います。

### ○よい習慣を身につけること

単純でかつ面倒ですが、凡事徹底を合言葉に「はきものをそろえること」、「出したイスをそろえること」、「日課をそろえること」、この三つをあきらめずに繰り返し支えていきたいと思えます。日々の行動が習慣となり、生き方となり、人生をつくりきます。

### ○本物の学力を身につけること

フリートークを生かした学び合いづくりを進めています。フリートークを世間話タイムととらえ、話し手がうれしい聴き方づくりに取り組んでいます。フリートークのポイントでもある「共感・実感・身近感」のある学び合いを目指しています。

以上三つを柱として教育活動を進めています。そうして私たち教職員は、子どもの喜びや成長を実感し、その幸せに寄り添うことができる幸せを感じたいものです。



世間話タイム

## 家庭・地域と共に 本物の学力をめざして

### ○白石まるごと学びレッジ

白石まるごと学びレッジプロジェクトという街ぐるみの学習環境づくりに取り組んでいます。コミュニケーション・スキルで協議し、PTAボランティアの皆さんと主に二つの活動をしています。一つめは算数の長さや道のり、高さ広さ、重さなどを表示板で現場表示をする活動です。(実感・身近感)二つめは学校から1km地点や1km範囲、白石地区たてもの高さベスト3や、国語教科書に出てくるタンポポやカワセミなどに出会える場所情報を大判航空写真上に示し、ホールに提示する活動です。(俯瞰・身近感)

教科書の学びに「実感・身近感・俯瞰」をそえ、心がゆれ動くことで、生きて働く知識に近づいてほしいとスタートした取組です。



大判写真で俯瞰



現場表示で実感

### ○大切なもの

#### ○復活シンボルツリー大いちよう

歴代の卒業写真の多くは白石小のシンボル大いちようの前で撮られています。その大いちようが数年前に立ち枯れ、切り株だけになっていました。その朽ちた切り株から昨春、元気なミニ大いちようが芽生え、今5m近くまで成長しました。大いちようの復活・成長にあわせ保護者の方々が様々な大いちようくんグッズを作成してくださいました。

#### ○先輩方からのメッセージ

四十数年前の先輩方からのメッセージが今日も私たち子どもたちに届いています。中庭にある石碑です。「草のようにたくましく 雲のようにおおらかに 輪となるう 光となるう」と刻まれています。たくましく、おおらかに、みんなが手をとり合って、笑顔いっぱい白石小学校でありたいと思えます。



復活したいちよう

# コミュニティ・スクール、地域協育ネット、 そして、小中一貫教育への挑戦



岩国市立東中学校

校長 村井浩司

コミュニティ・スクールや地域協育ネット、そして、小中一貫教育という取組が始まった理由の一つは、山積する教育課題の解決であると言える。同時にこれらの取組は、多くの推進校・実践校が証明しているように、教職員の資質向上につながっていることは言うまでもない。

今回の本誌への寄稿は、私自身のここ十年間の取組・歩みを振り返るよい機会となった。

## コミュニティ・スクール及び地域協育ネットへの挑戦

平成二十一年度から三年間、光市立浅江中学校の教頭として、平成二十四年からの三年間は山陽小野田市立竜王中学校の校長として勤務した。

浅江中学校では、初めてのコミュニティ・スクール(以下CS)に当惑しながら、先進校に学び、CSの立ち上げに関わった。様々な地域との交流活動を仕組んだことから、三年間で急速に地域住民との連携が進み、通称「あさなえネット」が誕生した。

最も印象に残っていることの一つは、生徒により考案されたマスケットキャラクター「つながりん」の誕生である。CSの主役はやはり生徒であることを改めて感じた瞬間だった。また、これらの取組を支える教職員も



マスケットキャラクター

「無理なく・楽しくやる」という目標のもとで、アイデアや労を惜しみなく注いでくれ、まさに、One Teamで過ごした三年間であった。

竜王中学校では、学校支援地域本部事業、地域協育ネットの立ち上げという新たな挑戦が待っていた。

学校支援と地域貢献という取組は、「困難を極め、「知・徳・体」の三部会で取り組んだ学校支援の活動は、当初わずかに六事業。そこで、地域貢献活動を中心とした取組へと軸足を移動させ、ようやく学校と地域との信頼関係が築きあげられた。

三年目には、相互支援献活動が三部会で四十六事業にまで増え、地域との交流が一層活性化した。地域から卒業生一人ひとりに贈られた手作りコサージュ(生花)は、特に印象に残っている。通称「りゅうみんネット」の開花を実感した瞬間だった。

## 小中一貫教育への挑戦

平成二十七年年度から二年間、岩国市教育委員会と令和二年度から全中学校区で取り組む小中一貫教育に向け、その基本方針、ガイドライン、Q&A等の策定に携わった。

当初は先進地・先進校に学び、できることを一つ一つ積み重ねていくという作業が続いた。

その後、平成二十九年度からの二年間は岩国市立平田中学校で勤務し、CS、地域協育ネット、小中一貫教育を融合させた学校経営がスタートした。

最も大変な作業は、九か年のカリキュラム編成であつ

た。小中一貫教育の導入に向けて、一つ一つのカリキュラムをつなげていく挑戦が市内各中学校区で競うように始まった。

そして、令和元年度から岩国市立東中学校に着任した。ほとんどの中学校区が取り組む施設分離型または隣接型の小中一貫教育とは異なり、本学校区は、施設分離型で令和二年度が始まり、九月には小・中学校が一つの新校舎に移転し、施設一体型の一貫教育校として再スタートする。小学校一年生から中学校三年生まで約六百三十名の学校が誕生する。

これまでの三年間の歩みは着実に、推進組織が機能し、地域協育ネットの仕組みが生かされ、地域を巻き込んだ小・中学校の交流活動が活性化していた。前校長をはじめ多くの教職員の真摯な取組に改めて敬意を表するものである。

これらを受け継いでの着任であり、その重責を感じるとともに、来年度に迫った小中一貫教育校の開校と、平成から令和への時代の変遷とを重ね、新しい時代の幕開けに、新たな挑戦という運命的なものを感じている。まさに、わくわく感と緊張感が内に同居した、時代の節目となった一年であった。

キーワードは、「新しい学校文化の創造」である。小・中学校の児童生徒と教職員との共同生活が始まるうとしている。誰も経験したことのない挑戦が始まるうとしている。

東中学校区で育てたい子ども像は、「自分をつくる子」、「仲間をつくる子」、「未来をつくる子」である。九か年で健やかにたくましく成長する子ども姿を保護者・地域住民とともに今想像している。

これまでの四年間、四校の教職員と保護者、地域住民が熱い思いと協働で作上げた「つながり」の礎と「志を受け継ぐ」とともに、「新しい学校文化の創造」を、自分自身の学校経営の総決算として取り組んでいきたい。



新校舎イメージ



あたたかい言葉で心を育てる

周南市立富田西小学校

教諭 清水 香代子

ことばを育てることは  
こころを育てることである  
人を育てることである  
教育そのものである

大村はま先生の言葉です。

私は、いつもあたたかい言葉があふれる学級、安心して誰もが自分らしくいられる学級を目指しています。

四月八日。始業式は、子どもにとって一年の中で一番ドキドキする日でしょう。「どんな先生かな。どんなクラスかな」。その期待が、「一年後に「このクラスで成長できてよかった」になるように、私は自分の全神経を注いで、出会う子どもたちのよいところに目を向けます。全力で、学級全員のほめる材料を探し、言葉にします。

「〇〇君は、校長先生のお話を最後まで目を向けて聞いていたね。相手意識が高いですね。」

「〇〇さんは、座っていた時も背筋が伸びていたね。やる気パワーを感じたよ。」

子どもの育ちに凹凸があるのは当たり前。それをならして、整えようとするのではなく、個性を活かし、そのユニークさを認め合える学級にしたいと思います。発言だけではなく、行為や態度面にも目を向け、その子のもつよさに焦点を当て、価値付けたい



「ほめ言葉のシャワー」の取組場面

と常に思っています。なぜなら、「教師の見る目」がそのまま「子どもの見る目」になるからです。  
「黄金の三日間」。学級ルールの徹底に必死になりがちですが、同時に、個々のよさを引き出す言葉をたつぷりかけることで教師との縦糸を繋ぎたいと思います。  
縁があつて出会った目の前の全ての子どもたちが、必ず伸びると強く信じて、あたたかい言葉をかけ続ける教師でありたいと思っています。



学級経営にも「理論」がある

長門市立仙崎小学校

教諭 飯田 将之

四月から全面実施される学習指導要領では、「学級経営の充実」が強調されています。しかし、学級経営はこれまでの経験や勘に頼ってしまうところもあり、子どもに申し訳ないと思えることが幾度もありました。そんな時に出会ったのが、特別活動です。そこで、多くの優れた実践を学び、学級経営にも「理論」があることを知りました。

まず、「織物モデル」です。これは、教師と子どもの縦糸、子ども同士の横糸の関係づくりを示した理論です。学級開きの四月は縦糸づくりにエネルギーを注ぎます。担任の思いや期待を伝え、学級の秩序づくりを重視します。この時、ルールを一方的に押し付けるのではなく、子どもの納得感を大切にしたいものだと思います。取り組んでいます。

次に、学級目標の理論。学級目標は一年後のゴールの姿であり、価値観を共有する拠り所となるものです。五月の学級活動で、全員参加の話し合いで決定します。子どもたちが学級目標の達成を目指し、特別活動で実践を重ねることで、横糸の関係づくりは強化されると考えます。

昨年度の六年生の学級では、「学級の歌」をつくったり学級集会で「お化

け屋敷」をつくったりしました。子どもたちの声から生まれた活動、学級会で合意形成されたことがらには、子どもが本気になり、普段とは違った顔を見せてくれるというすばらしい実践となりました。一年間の戦略の中で、子どもに任せる場を増やすことで自治の力が育つていくと感じます。

最後に、子ども理解の理論。学級経営の第二步は子ども理解だと思えます。気になる子を含めて、学級全員の内面やよさを知り、教師の関わり方を選びたいです。四月は、広い視野で子どもをしつかり見ること、知るところを大切にしたいと思えます。

という私も、学級経営が依然と上手いきません。三月の「学級しまい」で、教室が感動で包まれるように、子どもたちが自信をもって次の学年・学校に向かえるように、学級経営の理論を学び続けたいです。



みんなですすんで知恵を出し合う



「気付き・考え・行動できる」生徒の育成



岩国市立川下中学校  
教諭 佐藤 翔太

私は新年度の学級開きの際、「当たり前前（あたりまえ）のことが当たり前前（あたりまえ）にできるクラスにしよう！」ということをお伝えします。

具体的には、①学校やクラスの決まり、約束事が守れる ②みんなの声をかけ合うことができる ③勉強する雰囲気づくりができて、授業を楽しめる ④係活動や清掃活動などに積極的に取り組める ⑤行事に一生懸命になれる という五つです。

一人ひとりが当たり前前（あたりまえ）のことにできれば、誰にとっても居心地の良いクラスができるはずです。そして、生徒全員に進級・卒業する際、「このクラスでよかった！と思わせる」と、初日の教室へと向かいます。

同時に私は、自分が関わったすべての生徒に、社会に出た際、周囲の人たちから、可愛がられる人になってもらいたいと思っています。自分自身の経験から、そのためには、「気づき・考え・行動する」ということが大切だと感じています。生徒がこの三つの力を身に付けることができるよう、日々の生活の中でアドバイスをしています。当然、私自身に気づき・感じる力が必要なので、常にアンテナを張り巡らせるようにしています。

また、生徒・保護者と価値観を共有する必要があります。そこで活用



卒業までのカウントダウンカレンダーを作った後で

しているのが学級通信です。学級経営の方針、クラスの現状を生徒・保護者に「見える化」し、理解・協力を得られるようにしています。生徒の活動に対する価値付けとしても大きな役割を担い、感想や集合写真を掲載することで、クラスへの帰属意識も高めることができます。

生徒たちが自分自身をしつかりと見つめ、目的や目標をもち、今何をすべきかを考え、先を見通して行動できる一年間になるよう、今年度も頑張ります。

安心できる学級づくり



防府市立桑山中学校  
教諭 宮崎 麻衣子

四月、学級との出会いの日、新しい仲間の中で緊張感いっぱいの子供たち。私が、最初の学活でまず行うこと、それは担任としての自己開示である。担任としての経験が浅い頃は、ただひたすら自分の新しい学級への思いを語ってスタートすることが多かった。しかし、今は、まず私自身がとても緊張していることを伝え、簡単なプロフィールクイズを行うようにしている。私自身を知ってもらう以上に、生徒が新しいクラスメイトと話す場面を作る中で、一人ひとりの様子を観察でき、何より「ここでは自分のことを出してもいいんだ」という感覚と少しの安心感を初日に味わってほしいと思うからだ。

また、クイズの後には、ちょっとした人間関係づくりの活動を行うが、それも同様の思いからである。そして、最初の学活の最後には「二年後、『このクラスでよかったなあ』と思える学級づくりをみんなと共に行きたい」という願いを伝える。

私が学級づくりをしていく上で常に大切にしていることは「安心感や居心地のよさ」である。しかし、それらは単なる馴れ合いの関係から作れるものではない。一歩間違えば、「だれ」や「荒れ」につながる可能性もある。そのため、生徒自身が、めざす学級づくり

の大事な一員としての自覚をもてるよう、様々な活躍の場づくりも重視している。大きな行事だけでなく、委員・係活動をはじめとする日常生活一つ一つの中で、見守りながらも、いかに生徒に任せ、経験させ、自信をもたせるかが、安心感のある学級づくりには欠かせないと思う。

また、新たな生徒たちと、新たな学級づくりがスタートする。生徒と共に、一人ひとりが安心できる場づくりに一層努めていきたい。



生徒の手による多くの学級掲示

## 声のハーモニーをつくり出す



周南熊毛支部

河内 澄行

私の人生の潤いはコーラスである。地元の合唱グループ・混声くまげ「i」に入って二十二年目になる。

きっかけは、単身赴任が解けて、夫婦で共通の趣味を持ち、地域参加をしたいと思ったこと、また、先輩の誘いがあったことである。現職中であり、退職してからでは地域の生涯学習グループの仲間に、入りづらいつてはないかと感じ、四十歳代のうちに始めた。

コーラスの魅力は、声のハーモニーをつくり出せること。みんなで歌って、いろいろな声の重なり合いや響き合いを体で感じたとき、心の中がホワッと温かくなる。腹の底から声を出せば、ストレス発散にもなる。

毎年、地区の文化祭や周南市と光市の合唱祭に出演している。

今、練習している曲は「シューマンの『子供の情景』による日本の子供の遊び唄メドレー」だ。シューマンの旋律をばさみながら、「かごめかごめ」や「しゃぼんだま」等の童謡・遊び唄を編曲したものである。

昨年は、地元の小学校二校から出前授業の申し込みがあり、訪問もした。授業中、テノールとバスの男声による歌「うみ」を聴いた子どもたちから「うわあつ」と歓声が上がった。歌ついで

る私たちも驚き、喜びに浸ることができた。子どもたちは日頃、男声や混声合唱にふれていないのだ。

この出前授業は、周南文化協会が次世代を担う子どもたちを育成支援する事業で、童謡や日本の美しい叙情歌を伝えていきたいと考える私たちが学校を訪れ、鑑賞や合唱体験を講座にするものだ。

最近の活動を紹介したが、古今東西の合唱曲にも挑戦している。

毎週一回の練習では、互いのパートの歌声を聴きながら、指揮者とピアノ奏者の指導のもとに曲をつくり上げていく。毎回、あつという間

に一時半が過ぎる。この

コラムを讀んでいただいでいる方に、私達の歌声を聞いてもらえないのが残念だ。



小学校での出前授業

## もの好きと言われながら 継続と挑戦



下関支部

森 誠二

せん。

六十代になると、走るたびにワースト記録更新が常となりました。今は記録の向上は困難ですが、妻と旅行を兼ねて遠方の大会に参加することを日頃の練習の褒美にしています。

退職して早四年。新しい仕事に加え、ギター、英会話、資格試験等、毎年新しいことに挑戦し、生活に潤いを求めています。

「先生、今も走っていますか？」私あての年賀状の添え書きにしばしば登場する言葉です。「ええ、細く長く続けていますよ」と独り言をつぶやく私がいいます。今から二十八年前の秋のこと、初のフルマラソンに向けて走り込む同僚から声をかけられました。「先生、一緒に走りましょう」。

誘われるがまま走った約五キロが思つた以上に心地よく、やがて私は各地の大会出場を目指すようになりました。当時は、マラソンブームに乗って、全国各地で大会が開催されていたことで、下関市でも長府城下町マラソンが始まったばかりでした。

大会初参加以来、毎年数回、日帰り可能な大会を中心に出場するようになりました。やがてフルマラソンにも挑戦。大会要項と記録証、ゼッケンはすべてファイルに保管し、その厚みも年々増していきました。

やがて走り仲間もでき、駅伝メンバーを組んだり家族同士のつながりができたりもしました。

「なぜ高いお金を払ってわざわざ苦しい思いをしに行くの？」

知人からは、そう言葉をかけられることもあります。長い距離を走るのは好事家のすることなのかもしれま



「たたらぎダム湖マラソン大会」にて

# 教職時代を偲ぶ



下関支部  
山口 知久

私の故郷は、萩から四十キロの離島・見島です。

島の小中学校では、様々な先生方との出会いがありました。帰りの会で教科書以外の歌をたくさん教えてくださったO先生、「二十四の瞳」を、年間を通して国語の時間の最初に読んでくださったK先生、「白い色は恋人の色（ベッティ&クリス）」を、平易な英語に直して教えてくださったN先生、卒業式の時「山口、がんばれよ」と大きな手でぎゅつと握りしめて送り出してくださったO先生、夜の伝馬船でのサザエとりに懐中電灯片手に付き合ってくくださったU先生、盆踊りを一緒に踊り、よく特製のたれの焼き肉を食べさせてくださったT先生……。ほのぼのとした温かさやワクワクする高揚感を山ほどいただきました。そんな大好きな先生方とも、三年後にはお別れです。港には、鼓笛隊と紙テープ。船が港を離れると、遠くの波止場まで走つていき、船が見えなくなるまで涙で送った日。今でも忘れることのできない私の原風景です。

いつか自分も力をつけて、教師として見島に赴任したい！という思いを持ち、昭和五十四年下関市立勝山小学校に新採として着任しました。

教師や学校に社会の求めているものが昔と違うので、今では通用しないことばかりですが、新採三年間、私なりに子どもたちの居場所づくりに励みました。教室では、子どもたちが熱望する「饅頭こわい」の子ども版



校庭キャンプのテント張り

「ケーキがこわい」の読み聞かせ、「兎の眼」（灰谷健次郎）等の年間通読、へたなギターで「♪太陽がくれた季節」や「♪風」を共に歌ったり、夏には校庭にテントを張り、校舎で肝試しをしたり……。  
プライベートでは、「先生の田舎に行つてみたい」という子どもたちを島に連れて帰ったり、休みの度の下宿に押しかけてきた子どもたちと遊んだり、外食したりしました。そうそう、吉母の海に五月の連休に連れて行き、風邪をひかせたことも……。

そして、三十年余りがたち、最後の三年間、幸運にも勝山小に勤務させてもらいました。いよいよ退職という三月に、良きパパ・ママになった教え子たちが校長室に集合し、ギターを弾きながら「♪太陽がくれた季節」等を歌ってくれました。また、新採三年間で担任した学級の子どもたちが各々退職を祝ってくれ、本当に感激しました。  
今年の年賀状に、

暮れの読売新聞の令和、万葉集の関係で、防人の歌『父母（ちちはは）が 頭（かしら）搔（か）き撫（な）で幸（さ）くあれて 言ひし言葉（けとば）ぜ忘れかねつる』（旅立ちの時、父母が私の頭をなで、「幸せでいなさい」といった言葉が忘れられない）という歌が心にとまりました。（略）……。

と書きました。

今は、教え子たちや通勤途上に目にする子どもたちの頭をなでてあげたりすることも、課題解決への具体的な関わりを持つたりすることもかありません。ただ「幸せでいなさいよ」と願うだけです。

この四月に、新たに教員としてスタートされた先生方、教師としてのあり方が目の前の子どもにも影響を与えます。「自分の特性を活かした学級づくり」（許される範囲で）励んでください。温かい居場所となるあなたを子どもたちは待っています。父母だけでなく、たくさんの人たちが、「幸せでいなさいよ」と、応援していますよ。

## 終身会員の紹介

北村 経夫 様（熊毛） 山野 俊江 様（下松）  
玉川 良雄 様（下松） 松永 隆幸 様（萩）  
村田 正俊 様（萩） 藤永 悦朗 様（下関）

## 第二回通常理事会 二月四日（火）山口県教育会館

### 議事

【第一号議案】 山口県教育会館ホール・研修室・会議室の使用料の変更（案）について

【第二号議案】 令和2年度山口県教育会事業計画（案）について

【第三号議案】 令和元年度山口県教育会臨時評議員会の開催についてについて

第一号議案では、会館使用料の十八年ぶりの値上げについて審議され、承認されました。第二号議案では、令和2年度の活動方針・事業計画・収支予算書について慎重に審議され、すべての議案が提案のとおり承認されました。

### 報告並びに協議

報告では、代表理事及び業務執行理事の自己の職務の執行状況について報告がありました。

協議では、「第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会」について、令和元年度教育研究・地域活動等助成団体について、令和元年度会員状況について成果と課題に関する意見交換が行われました。

### 臨時評議員会

二月十八日（火）山口県教育会館

### 議事

【第一号議案】 令和2年度山口県教育会事業計画（案）について

山口県教育会の令和2年度の活動方針・事業計画・収支予算書について慎重に審議された結果、議案は提案のとおり承認されました。

### 報告並びに協議

報告では、山口県教育会役員等の任期満了に伴う新たな役員等候補者の選考のために、候補者選考委員会を設置する旨の報告がありました。

協議では、「第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会」について、令和元年度教育研究・地域活動等助成団体について意見交換が行われました。

(一財) 山口県教育会

# 入会のご案内



情報紙「山口県教育」



第10回青年教師の集い(理科)



第71回日本連合教育会研究大会  
滋賀大会(分科会発表)



第18回やまぐち教育の日  
第47回教育県民大会 柳井大会



第11回「わたしの志」作文  
入賞者表彰式

子どもも大人も夢をもって生きる豊かな学校や地域の創造にあなたの力を!!

あなたの会費を  
こんなことに役立てます

### 学校(園)の教育活動を支援します

- ・個人、学校(園)、グループ、サークルへの研修助成(コミュニティ・スクールの充実を含む)
- ・「青年教師の集い」の開催

### 地域活動を推進します

- ・「やまぐち教育の日・教育県民大会」の開催
- ・地域協育ネットの活動充実のための助成
- ・地区別教育振興フォーラム、史蹟探訪等の地域活動助成

### 伝統文化を継承します

- ・「金子みすゞ賞」童謡詩募集
- ・「わたしの志」作文募集
- ・地域の文化遺産や伝統文化の継承活動助成

### 情報紙「山口県教育」を発行します

- ・会員相互の情報交流

詳しくは、ホームページをご覧ください  
<http://www.ykyoikuk.or.jp>

## 入会にあたって

### 1 対象

- ・保育園・幼稚園、学校等の現職教職員と退職者
- ・一般県民、学校(園)のPTA会員、教育関係機関の職員、諸団体の職員

### 2 会費(年会費)

- ・通常会員……………2,000円(初年度は1,000円)
- ・賛助会員……………3,000円
- ・終身会員……………50,000円(入会時のみ)

### 3 入会申込

- ・現職教職員の方は、学校(園)の担当者に
- ・一般の方は、(一財)山口県教育会事務局、または、各支部担当者に

(一財)山口県教育会(組織課)  
TEL 083-922-0383  
FAX 083-922-5768